

市の関係者からは、「財政が厳しい」「予算がない」という言葉をよく耳にします。私たちはこの言葉を聞いて、「市にはお金が無くて大変なんだ」と、これまで他人事のように、勝手に納得していました。

市の何が大変なのか、どうして大変なのか、何もわからずに受け入れて、その先については考えようとしませんでした。また、考えるために必要な情報も身近にはなく、市の財政について考えることについても、生活していく上では必要ありませんでした。

2000年10月に市の施策を金銭面で支えている財政について、少しでも知りたいと思う有志によって「東大和市の財政を考える市民の会」が発足しました。資料を収集したり、学習会を開催したりといろいろな活動を行ってきました。

そんな折、2008年3月に三多摩自治体学校が東大和市で開催されることとなり、私たちの活動を「財政問題」の分科会で発表することになりました。多摩住民自治研究所の大和田一紘先生や事務局長の大野さんにご指導をいただきながら学習を重ね、発表の資料づくりに追われる日々が続きました。

分科会での三多摩各市や近県市の発表や意見交換の中で、財政白書を作っている市民グループが数多くあることを知り、私たちも取り組んでみようということになりました。会の名称も「東大和まちの財政をまなぶ会」とし、新たにスタートを切りました。

幸いなことに、白書作成に必要な過去の基本的財政資料は、「東大和市の財政を考える市民の会」からの蓄積がありました。このデータを使ってどういった切り口で作成するか、参考に各市で市民または行政が作成した財政白書を取り寄せたりしながら、約10ヶ月の試行錯誤を繰り返し、ここに私たちの「まちの財政を解りたい！—市民がつくった東大和市の財政白書—」を刊行することができました。

白書の編集作業を通じて、東大和市の財政を知れば知るほど、市の将来に不安を感じることとなりましたが、知らなければ考えることはできません。考えることができなければ行動することもできません。多くの市民の方々にまず知ってほしいと考えています。この白書がその一助になれば幸いです。

最後にこの白書を、ご自身で収集・整理された膨大な財政データを快くご提供いただきながら、本の完成を見ることなく亡くなられた初代会長の船橋昭さんに捧げます。

2009年1月

東大和まちの財政をまなぶ会